

令和元年度 学校評価書

学校教育目標		人に優しく自己に厳しい人格の形成と、社会人としての義務と権利の理解により明るく健康な家庭をつくる倉敷市民を育てる				
重点項目	中長期経営目標	短期経営目標	評価項目 (具体的な計画)	達成状況	評定	改善方策
学習指導	基礎学力の定着・向上と時間厳守の励行	「つきたい力」を明確にし、そのための授業づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> 授業規律、整理と整頓を徹底する。 各教科の単元ごとに、基礎・基本の定着を行うとともに、既習事項を活用する発展的な内容を取り入れ、個に応じたレベルアップを図る。 ICT機器を活用し、「～ができる」授業を实践し、興味や関心を高める授業を展開する。 SHR出席率80%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 例年に比べると授業準備もよくなり、落ち着いて授業が始められるようになった面もある。ただ発展的な内容に意欲的に取り組む生徒は少ない。 個人的には取り組めたという意見もあるが、全体としては十分に取組はできていない。 年度後半には若干の上昇を見込んだが、出席率は67.5%であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 本年度は授業規律、授業改善等への取り組みが各教員個人の意識に任せている面が多々あり、十分な取り組みができなかった。一定の基準を示し、学校として組織的に取り組んでいく体制を再構築する必要がある。 SHRの位置づけの意識欠如とそれに対する指導不足。生徒個々に粘り強く声掛けをし、一日の始まりを意識した学校生活を送ることができるように徹底した指導を行う。
生活指導	自己管理能力を高める指導～時間管理能力と見通し力の育成～	【普通科】	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻カードの継続的な利用による遅刻の可視化とそれに対する指導を行う。 ノーチャイムデーなどの取り組みや、日々の指導を通じて授業の始まりの時間を意識させる。それによって、先を見通して時間を管理する能力の育成を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻カードに関しては、依然として、可視化された情報をどれだけ認知できているかという問題は残る。その場での簡単な口頭注意を行っている状況である。 ノーチャイムデーは、概ね機能している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻カードに関しては、様式を変更することにより、可視化される情報をより分かりやすく改善したい。その結果、指導に入るタイミングを意図的に作りたい。 ノーチャイムデーは日に限定することなく、週や月単位での実施やテストでの実施を通して、意識できる回数を多くしたい。また、生徒の意識調査を2月中に行い、意識面での対策を考えたい。
		【商業科】	<ul style="list-style-type: none"> 学年を中心とした取り組みの実施と入室許可証を用いた遅刻の可視化とそれに対する面談を行う。 手帳を活用し、ショートトークを中心とした目的意識の育成を行う。 ループリックを用いて自己管理能力の向上を意識付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 入室許可証に関しては、可視化ができ、書く習慣が身につけてきている。また、手帳やショートトーク、ループリックの影響か、生徒が落ち着いてきている。行事に関しては90%の出席率となったので良かったと考える。そして、最高学年次の就職決定率が88%、2年次も書き初め(書道の時間での取組)にも自己の意志を表現できるなど前向きな姿勢が見られた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻が減少しない生徒に対してのアプローチを今後検討していきたい。また、手帳やループリックを用いて、目的意識の向上と自己管理能力の向上の取組を継続して行っていきたい。
キャリア教育	個に応じた進路指導を行い、生徒の夢=就職・進学が100%叶う学校を目指す	<ul style="list-style-type: none"> 3年生全員と進路課面談を実施する 2学期以降、2年生全員と進路課面談を実施する 担任と情報を共有し、個に応じた就職(進学)先をみつける 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生全員との個別面談を年間2回以上行う。そこで個々の希望や悩み等を聞き、個に応じた進路情報を伝える。同時に担任と連携を取り、各生徒情報や生徒個々の抱えている問題等を共有し、必要に応じて外部機関と繋げる。 	<p>今年度は普通科・商業科ともに、生徒全員が応募前見学に参加するなど、それぞれの進路に向けて活動することができた。その結果、約8割の生徒がそれぞれの希望進路に進むことができた。また、特別な支援を必要とする生徒についても、外部機関との連携ができ、見学や実習を経て進路決定をすることができた。2年生との面談を2月以降に考えている。</p>	B	<p>今年度は生徒の動きもよく、進路に向けて自ら相談に来たり、複数の企業の見学に参加したりと積極的に活動できたため、進路情報の提供や支援もスムーズにできたように思う。今年度の進路活動で得られた情報や手法、外部との連携の方法について、3年担任団が下の学年の担任団に連絡・報告ができる場(新旧担任連絡会)を設け、今後の進路支援に活かしてしていけるようにしたいと考えている。</p>
	インターンシップへ積極的に参加させる	<ul style="list-style-type: none"> 2年生就職希望者全員へインターンシップへの参加を促し、職業観・勤労観の醸成をの一助とする。8割以上の生徒の参加を目標とする 	<ul style="list-style-type: none"> 2年団進路課を中心に、4月当初より生徒との面談やアンケートを行い、企業とのマッチングを行う。 きめ細やかな声掛けを行い、なるべく多くの生徒にインターンシップに参加させる。インターンシップへの参加により、仕事に就くことへの自信と自覚を身に付けさせ、望ましい職業観や勤労観を醸成する。 	<p>就職希望者全員がインターンシップに参加した。また、おおむね各自が今後志望する職種へのインターンシップに参加することができたが、一部志望とはやや異なった職種への参加となった。学年団の声掛けもあって生徒たちは積極的に実習に参加した。</p>	B	<p>志望職種へのインターンシップ参加は受け入れ先の開拓も必要となってくる。今年度は受け入れ先の開拓が十分ではなかったため、一部志望とは異なった職種への参加となった生徒もいた。今年度の求人票受付時に趣旨説明をしたうえで来年度以降のインターンシップ受け入れのお願いをしたところ、いくつかの企業より受け入れ可能の返事をいただいた。今後は職場適応訪問の際などにさらに受け入れ先を開拓していきたい。</p>

4段階評定 (A: 目標を十分に達成 B: ほぼ目標を達成 C: やや不十分 D: 改善を要する)